

令和5年度 鈴鹿工業高等専門学校入学式 校長式辞

本日、鈴鹿工業高等専門学校令和5年度入学式を挙行出来ますことは誠に喜ばしく、教職員ならびに在学学生を代表して入学のお祝いを申し上げます。入学者は準学士課程211名、専攻科29名、そして第3学年にはマレーシアからの留学生2名を迎えています。

皆さんは人生の極めて早い段階で技術者への道を選択されました。皆さんの決意と努力に心から敬意を表すと共に、皆さんの高専生活が実りあることを願い、今高専で学ぶ意義と心がけて頂きたいことをお話しします。そのために、先ず高専の歴史と高専教育の評価を簡単に振り返りましょう。

高専制度は60年前に実践の中堅技術者を必要とした産業界の強い要望で創設され、伝統ある一期校の鈴鹿高専は昨年十月に創立60周年記念事業を執り行いました。高専が設立当初から重視してきた実験や実習などの実践的教育により、これまで輩出した卒業生が社会の様々な分野で活躍していることは私達の誇りです。

国は今から15年ほど前の平成20年に高専教育の高度化を議論しました。議論の中で、先ず卒業生の評価を次のように紹介しています。高専卒業生は企業で活躍するのに重要なモチベーション、協調性、課題解決力、創意工夫の点で優れている、さらに専攻科修了生は、同年代の大学学部卒業生と比較して専門知識、勤勉性、チャレンジ精神など多くの面で優れている、という評価です。そして既に15年前、当時の社会や産業界が高専創設時から大きく変化し、技術者に求められる能力がより高度になっていたことから、国は高専の役割を、創設時の中堅技術者の養成から高度化して、幅広い場で活躍する実践的・創造的技術者の養成としました。そして近年、人工知能などの急速な技術革新が進む中で、マスコミ等の報道もあるように高専は今ますます注目されています。高専への期待は、社会の課題解決に貢献し、イノベーションつまり技術革新を創出できる人材の育成、とも言われています。

以上が高専の歴史と評価です。社会の大きな期待に対して、励みになると共に少し不安も感じるかも知れませんが大丈夫です。皆さんは鈴鹿高専で大きく成長されるでしょう。その為に心がけて頂きたいことをお話しします。

先ず、当然ですが勉学に励んで確実な基礎学力と技術力を身につけましょう。その上で特に心がけて頂きたいことは、沢山の友達や仲間を作ることです。そして勉強を教え合ったり、勉強以外にも様々なことに協力して取り組んで下さい。それが心がけて頂きたいことです。今日の産業界の技術開発はスマートフォンの出現に代表されるように、異分野融合あるいは複合融合と呼ばれ、ある専門技術の高度化よりも、様々な技術を融合させて新しい価値を創造する手法が主流になりました。言い換えれば、技術者が他の人と協働して仕事をすることが従来にも増して重要になっているのです。そして全国高専の卒業生からとった統計データも、高専時代に多くの仲間と様々な活動をした体験が、技術者として大きな財産になることを示しています。

鈴鹿高専にはそのような活動の場が沢山ありますが、新しい時代に向けた高専教育の動きを二つ紹介しましょう。

一つは、今年から全国の高専がスタートアップ人材の育成に取り組めます。スタートアップ人材とは、新しいビジネスモデルを作って社会に変革をもたらす人材で、高専はその人材育成のために活動空間を含む教育環境を整備します。そこでは高専生が自由な発想でものづくりやビジネスアイデアに挑戦し、実際に起業して会社を作ることも期待されています。

もう一つは3年前に始まった高専のGEAR5.0事業です。この事業は、情報社会の次に来る人間中心の社会の実現に向けて全国の高専が連携し、社会の様々な課題を技術的に解決する事業です。5つの研究部門の一つは鈴鹿高専が中核校として全国の高専の先頭に立っています。ここでは学生も研究に加わることで社会の課題を解決する高度な能力の育成が期待されています。特に専攻科の皆さんは既に大学生と比べて圧倒的な専門的技術力があり、総合イノベーション工学専攻の名が示すように、まさに複合融合領域に対

応できる高度で創造的な技術者の育成を目指しています。思う存分研究に打ち込んで下さい。

本校の建学の精神である、知・徳・体のバランスがとれた全人教育は時代と共に古びることなく、今一段とその輝きを増しています。この素晴らしい建学精神に則り、皆さんが鈴鹿高専で学び、色々なことにチャレンジし、良き友を沢山作り、青春を謳歌し、それぞれの個性に応じて成長されることを期待し、式辞とします。

令和5年4月5日

鈴鹿工業高等専門学校校長 竹茂 求